

新専門医制度と地域医療構想—今問われる大学病院の地域連携—



本年度より病院長特別補佐として、久留米医師会参与、福岡県病院協会副会長を継続することとなり、地域医療構想に関する業務を引き続き担当しています。

本年4月1日から策定された地域医療構想に則り、大学病院も様々な対応を行っています。3月31日の福岡県医師会病院研修会では、大学病院の立場から上記表題の報告をしました。要点は、①地域医療構想と新専門医制度との関連、②本年度は6プログラム（耳鼻科、小児科、救命救急、整形、病理、形成）で新専門医プログラムの暫定運用開始、③平成30年度より基本診療科の新専門医プログラムが本開始予定、④より広域な本質的医師偏在の解決に向けた専門医機構と関連学会主導による対応への期待、⑤プログラム参加者の医学部・大学病院の維持と地域医療貢献への重要性、の5点です。

さらに専門医機構などで議論が重ねられていますが、原則は上記内容で実施される模様です。専門医プログラムそのものが重要なのはもちろんですが、大学として専門医プログラムとは別に、大学院進学・博士号取得、留学、基礎教室出向など、アカデミアとして個々の医師の生涯を考えた、ライフプランの選択肢を提案できると考えています。

ここ数年は入局者の減少が問題となっていました。本年度の入局者数は久留米大学全体で99名（本学卒業生49名、他学卒業50名）と回復傾向で、新専門医制度が開始される中、関連施設のネットワークを含めた久留米大学の総合力が学内外の専攻医たちに評価された結果と考えています。しかしながら、未だ厳しい状況の診療科もあり、入局者、専門医プログラム参加者の獲得に向けた働きかけを今後行わなければなりません。

若い医師たちに専門的な教育を心を込めて行い、第一線の地域医療を担う人材を育成することが久留米大学の伝統であり、地域医療の基盤を支えてきたものと自負しています。これは久留米大学開学以来89年間一貫しており、これからも変わるものではありません。今後も久留米大学への皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成29年7月

病院長特別補佐
整形外科主任教授
志波 直人

病院執行部体制

病 院 長	八 木 実
病院長特別補佐	志波 直人
副 院 長	上野 高史
	山川 良治
	鳥村 拓司
	田中 芳明
	渡邊 浩
	福本 義弘
	高須 修
	上野 知昭

私たちの理念

人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療

私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
2. 共生の医療
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
3. 高度で安全なチーム医療
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
4. 地域と共に歩む医療
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
5. 優れた医療人の育成
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

TOPICS

● 炎症性腸疾患（IBD）センター——先進的な研究と地域医療への貢献をめざして

久留米大学IBDセンター 教授 光山 慶一

潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）は腸管に慢性持続性の炎症を引き起こす難病で、発症機序にはまだ不明な点が多く、その解明には基礎研究や臨床研究の積み重ねが必要です。本邦での患者数の増加は著しく、潰瘍性大腸炎とクローン病合わせて30万人を超す勢いであり、決して稀な疾患ではなくなりつつあります。久留米大学では、IBDの最先端の研究と診療を行う目的で平成19年に九州初のIBDセンターを設立しました。

外来診療では潰瘍性大腸炎約300名、クローン病約200名に加え、感染性腸炎や薬物、膠原病/血管炎、血液疾患など様々な原因で起こる腸疾患の診療を行っています。検査や治療は多岐に渡るため、業務の垣根なく全スタッフが助け合いながら日々診療しています。抗TNF α 抗体、免疫調節薬、血球成分除去療法などを用いた最新治療の提供に努めるとともに、国際共同治験を含む数多くの新薬の臨床試験も行っています。

研究活動にも力を入れており、臨床にフィードバックできるような独創的な研究を行うことを心掛けています。IBDは遺伝的素因、腸内細菌、免疫異常などが複雑に絡む多因子性疾患で、病態解析には多くの分野の専門的知識や技術が必要です。そのため、単施設だけでなく国内外の様々な領域の専門家との共同研究も積極的に進めています。研究成果は論文や学会発表を通して世界に発信しており、成果の一部は機能性食品、治療薬、診断薬としてすでに臨床応用が始まっています。

各専門分野の医師、メディカルスタッフや関連施設との間での交流も活発に行っています。毎月開催される“IBD合同カンファランス”では、消化器内科、小児科、外科、放射線科、血液内科などの臨床医学だけでなく、免疫学、医化学、病理学といった基礎医学の先生も参加し、症例や研究についての討論が行われています。腸管免疫の世界的権威である免疫学講座の溝口充志教授、恵美子准教授ご夫妻も参加され、基礎の立場から貴重なコメントを頂いています。また栄養士、看護師、薬剤師などの各メディカルスタッフと共に“IBDサポートセミナー”を定期的実施し、チーム医療の質向上に努めています。“筑後IBDカンファランス”の開催や“IBDネットワーク”の設立を通して関連医療機関との連携を効率的に進めていく体制を整えつつあります。さらに本疾患に対する正しい知識の市民への啓蒙のために、本年6月に久留米シティプラザで“第1回炎症性腸疾患市民公開講座”を開催しました。大変好評でしたので、今後も定期的開催していく予定です。

これからも、最先端の医療を患者さんに提供し、かつ先進的な研究に取り組むことのできるセンターをめざしてメンバー一同努力致しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



(写真1) 久留米大学IBDセンター受付



(写真2) 筑後IBDカンファランス (年2回実施している関連医療機関との勉強会)



(写真3) IBDサポートセミナー (毎月実施しているコメディカルとの勉強会) に「厚生労働省 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」班長 鈴木康夫先生をお招きして、前列左より、岩崎先生、水落先生、溝口先生、鈴木先生、光山、鶴田先生、牛島先生。

新任診療部長紹介

平成29年4月1日就任



教授
かわやま ともたか
川山 智隆

———呼吸器・神経・膠原病内科

1. 久留米大学 (平成2年卒)
2. 呼吸器内科学
3. 近年、原因不明の慢性咳嗽の患者さまが増加しています。大気汚染や受動喫煙が原因などと言われています。久留米大学病院呼吸器病センターでは、原因不明の呼吸器症状患者に対して、気道過敏性試験、誘発喀痰検査、呼気ガス検査および運動耐容能検査等、他院ではできない検査を駆使して、診断に取り組んでいます。お困りの方はぜひ相談ください。

1. 出身大学 (卒業年)
2. 専門の臨床領域
3. ご挨拶

平成29年4月1日就任



准教授
よしざと としゆき
吉里 俊幸

———産科

1. 九州大学 (昭和61年卒)
2. 産科、超音波診断、臨床遺伝
3. 前任地の福岡大学病院では、福岡都市圏の周産期医療を統括する立場から、地域周産期医療の向上に努力してまいりました。昨今の少子化に伴い、分娩数は減少傾向にあるものの、高齢妊娠、多胎妊娠等ハイリスク妊婦の増加により、これまで以上に当施設の役割が重要だと考えています。周産期医療は、人的資源集約型の急性期医療そのものです。当施設に加え、筑後地区の関連施設、産科診療所を大きな一つの病床群と位置づけ、相互の連携のさらなる深化こそが、重要だと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

久留米大学病院医療連携センターの取り組み



この度、医療連携センターの専任医師として着任いたしました山口圭三です。元々消化器外科医でありましたが、前任地は九州厚生局熊本事務所で、2年間指導医療官として、保険医療機関に対する指導監査や診療報酬請求に関する疑義解釈についての助言等の業務を務めておりました。医療連携センター着任以来、渡邊センター長の指導の下、「顔の見える連携」、「フットワークの軽い連携」を合言葉に、連携の将来像を妄想しつつ職務に精励しております。近隣医療機関の感染防止対策加算をはじめとした連携に関するマッチングや診療報酬請求に関するよろず相談など、オンリーワンの連携スタイルを確立したいと考えております。目指すはHUB空港ならぬ「HUB病院」で、筑後地区を中心とした近隣医療機関と患者さん、ご家族をつなぐ文字通り「HUB」となり、お住まいの地域で容態に合わせて最適な医療が受けられるよう、乗り換えしやすい医療連携を目指します。今後とも、ご指導、ご鞭撻ならびにご支援の程宜しくお願い申し上げます。

医療連携センター
副センター長（専任）
山口 圭三

認知症医療センター研修会のご案内

本院は、平成23年11月15日に福岡県認知症医療センターの指定を受けており、認知症の方の診断・治療のみならず、地域における医療と介護のネットワーク推進、啓発活動に取り組んでいます。その一環として、地域の医療機関や介護施設、行政職員、地域包括支援センター職員等を対象に、研修会や市民向けの講座を開催していますので、どうぞ奮ってご参加ください。

* 詳細や申し込み方法等に関しましては、福岡県認知症医療センターのホームページにて随時掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

平成29年8月1日(火) 【医療・介護従事者向け】

第12回福岡県認知症医療センター研修会

(会場：筑水会館)

講演内容：【認知症初期集中支援チームの取り組みについて】

平成29年9月19日(火)

第15回認知症事例検討会

(会場：久留米大学病院医学部看護学科A棟4階講義室4)



紹介予約センター紹介実績

医療機関の先生方、医療連携ご担当の皆様におかれましては、いつも紹介予約センターをご利用いただき、お礼申し上げます。

紹介予約センターは、平成26年2月17日の運用開始から、3年5ヶ月が経過しました。ご紹介いただく先生方からは、様々な助言、ご指摘を受けながら改善を図ってまいりました。まだ不十分な点もございますが、お電話での直接予約が可能な診療科を増やし、ファクス受付においてはお申込みから受診日決定のご連絡までを短くするよう鋭意努力してまいります。今後とも、紹介予約センターをご利用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

月別紹介予約件数表

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
年度別	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度
FAX件数	648	722	627	839	710	915	810	811	784	753	800	778	821	736
電話件数	276	273	249	284	346	288	291	307	290	288	290	278	253	281
電話割合(%)	29.9%	27.4%	28.4%	25.3%	32.8%	23.9%	26.4%	27.5%	27.0%	27.7%	26.6%	26.3%	23.6%	27.6%
合計件数	924	995	876	1,123	1,056	1,203	1,101	1,118	1,074	1,041	1,090	1,056	1,074	1,017
月別	11月		12月		1月		2月		3月		合 計			
年度別	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度	27年度	28年度		
FAX件数	732	694	532	690	649	749	806	749	848	923	8,767	9,359		
電話件数	250	262	263	232	245	328	270	308	262	335	3,285	3,464		
電話割合(%)	25.5%	27.4%	33.1%	25.2%	27.4%	30.5%	25.1%	29.1%	23.6%	26.6%	27.3%	27.0%		
合計件数	982	956	795	922	894	1,077	1,076	1,057	1,110	1,258	12,052	12,823		